

米国政府の25万以上の機密書類が、何者かの手によって国際非営利メディア組織ウキリークスに提供され、11月28日に一般の報道組織向けに出版された事件を受けて、連邦政府は「ナショナル・セキュリティ（国の安全保障）を脅かす重大な事件」と受けとめている。また、ウキリークスの創始者ジュリアン・アサンジに対してスパイ法を含めた刑法違反により、起訴できるかどうか調査中である。ウキリークスの情報筋によると、機密書類は、1996年12月28日から、2010年2月28日までに発信された274の大使館、領事館、及び在外公使からの外交公電であるらしい。この機密書類には、米政府役人と世界中のリーダー、外交官、及び政治家との内密の個人会話も含まれており、米政府及び他国の政府を辱める結果になっている。この膨大な秘密情報をウキリークスに提供した人物、又はグループの身元は断定されていない。また、漏れた情報が全て真実であるかどうかとも判明していない。

ウキリークスは、アフガニスタンでの戦争に関する機密情報を7月、英紙ガーディアンや米紙ニューヨーク・タイムスなどに9万以上の機密書類を暴露している。また、10月22日には、アメリカ歴史上、最大の軍事機密が漏れた事件が起きている。暴露された内容は、イラク戦争に関して、39万以上のペンタゴン機密報告書として2004年1月から、2009年12月までに記録されたもので *The Iraq War Logs* と呼ばれている。イラク及びアフガニスタン戦争に関する膨大な機密情報の漏れによって、民間人の正確な死亡数など、政府が事前に知らせず、国民に秘密にしていたことが判明した。同じく22日のガーディアン紙は、「組織的で刑罰を受けないイラク警察当局や軍人による、虐待、拷問、レイプ及び殺人など、かなりの頻度による報告に対して、米政府が調査しなかった」事を記述している。

ウキリークスは2007年にウェブ・サイトに登場して以来、匿名の情報筋から秘密情報を入手し、世間が知らないことを暴露し続け、アムネスティ・インターナショナルを含め、2〜3のメディア組織からメディア賞を受けている。人権問題と戦うアムネスティ・インターナショナルは最近、G. W.ブッシュ政権下で、「尋問捜査技術」を強化したブッシュと政府役人に対して、迅速な犯罪捜査を実施するよう要請している。ブッシュは、元大統領として、また個人としての人生の回顧録を書籍にまとめ、11月9日に出版したことは海外でも知られている。この本の中でも、NBCニュースのインタビューでも、本人は、イラク及びアフガニスタン戦争中に拘束された主な抑留者に対して、水責めの拷問を許可したことを告白している。

12月1日のアムネスティ・インターナショナルのニュースは、「ウキリークスが漏らした情報の一部は、2009年12月、南イエメンで米軍がミサイルを発射し、多数の住民が殺された事実を、今年、早い時期にアムネスティが提供した画像によって確証された」と報じている。更

に、「ウキリークス組織が出版した、2010年1月からの秘密情報には、イエメンの大統領、アリ・アブドラ・サーレハが米国陸軍大将、デヴィッド・ペトレイアスに、イエメン政府は「爆弾は我々のもので、貴方（米国）のものではない、と言いつける」ことを保証したとして報告されている」と伝えている。しかし、事実は全く逆で、このウキリークスの暴露は「ミサイル攻撃はアメリカ軍が行ったものであり、イエメン政府軍ではない、とアムネスティ・インターナショナルが掴んだ事実を更に確証した結果になった」と報じている。

賞賛と批判双方の対象になっているウキリークスの影響力は多大である。暴露された情報がすべて真実であるなら、建国当時の理想とその政治原理は、近年の米政府には微塵も残っていない事を、改めて米国民に認識させた事になる。一方、多数の情報筋によると、「アメリカの安全保障を脅かす」という点においては、「アメリカと同盟国との外交関係にダメージを与える」事や、秘密情報がネット上に拡大し、悪用される可能性がある場合、「人命が危険に晒される」など、米政府はかなり悲観的になっているようだ。